

国語プリントNo. ( )

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

## 論文「羅生門の構造」

## 目的

全員が文字として書かれていないことも読み取れるようになる。

## 目標

全員が以下の課題を完成させ、「羅生門の構造」を説明できるようになる。

## 課題

次のフォーマット（ナンバリングとラベリングを使った四段落の文章）をもとに、「羅生門の構造」に関する論文をノートに書く。

いつものようにノートの枠外に日付・年組番名前を記す。

（ ）に当てはまる表現を記入する。

《 》の中はどちらかを選んで記入する。

## フォーマット

（ ）や《 》のカッコ自体は書かない。

「羅生門」の主人公「下人」は物語の中で子供から大人へと成長した。その過程を三点説明する。一点目は「にきび」、二点目は「勇気」、三点目は「逆転」である。

一点目の「にきび」について説明する。下人のほおにはにきびがある。冒頭部、それをいじりながら（ ）という迷いがあった。「にきび」は幼いことの表れである。また、迷っているということは、考えがまとまっていけないという（ ）下人の状態を表している。

二点目の「勇気」について説明する。下人は（ ）ために盗人になる勇気がなかった。それは（ ）が盗人になる勇気を邪魔していたのである。（ ）（ ）（ ）（ ）では、（ ）（ ）が勝つてしまい、（ ）

プリント 13のDに書いたことをアレンジする。（ ）大人にまだなりきれない下人の幼さを表している。

三点目の「逆転」について説明する。《77頁14行目「しかし、これを聞いているうちに、下人の心には、ある勇気が生まれてきた。」/78頁6行目「そうして、一足前へ出ると、不意に右の手をにきびから離して、老婆の襟髪をつかみながら、かみ付くようにこう言った。》の部分で下人は大人になったことがわかる。なぜその時点なのかというと、（ ）そちらを選んだ理由〓選ばなかった方は間違いだという理由を記す。（ ）そうして下人は

プリント 13の「次の表現」枠内のAに書くこと。（ ）子供から、（ ）プリント 13の「次の表現」枠内のBに書くこと。（ ）大人へと成長したのである。